MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2026.5.2

第 1200 回放送分『子宮頸がん』1 回目

ゲスト：小林裕明ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「子宮頸がん」をテーマにお送りいたします。
お話は、3 月まで鹿児島大学医学部産科婦人科にいらっしゃった
小林裕明（こばやし ひろあき）ドクターです。
小林さん、よろしくお願いいたします。

小林裕明Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

早速ですが本日は何からお話しいただけますか。

小林裕明Dr.

今日はまずショッキングな話からになります。
令和 3 年の全国の子宮頸がん罹患率のデータが今年出たのですが、
鹿児島県は何位だと思いますか？

二見いすず

ショッキングということですから、
ワースト 5 位くらいに入っているということでしょうか？

小林裕明Dr.

実は残念なことに全国で一番多いんです。

二見いすず

ショックです。

小林裕明Dr.
子宮頸がんになると、命を落とすという怖さはもちろんありますが、
それ以外にも子宮を失ったり、合併症などで一生苦しんだりするという悲劇もあります。
一般的にがんはⅠ期からⅣ期ある中で、
Ⅰ期の場合は早期がんと言われはするものの、
子宮頸がんはⅠ期でも子宮を失う手術が標準の治療です。

二見いすず
早期と呼ばれるⅠ期であっても子宮を失わなければならないのは、
女性にとってはつらい選択になりますね。

小林裕明Dr.
はい。その上、手術できるのはⅡ期までで、
Ⅲ期以降まで進んでいると放射線や抗がん剤治療となります。

二見いすず
なんとか子宮を失わずに済むためには、
どの状態で見つけることが大切なのでしょうか？

小林裕明Dr.
異形成から上皮内がんまでの前がん病変の段階でみつからないと厳しいです。
この段階だと子宮の出口を円錐形に切り取るか、レーザー照射すれば治ることが多く、
子宮を失わずに済むため、その後の妊娠も可能となります。

二見いすず
上皮内がんまでのうちに見つけることがとても大切なんですね。

小林裕明Dr.
はい。そして手術できるのはⅡ期までとお伝えしましたが、頸がん病巣のまわりにマージンをつけてとる広汎子宮全摘術をすると、さまざまな合併症がおきます。尿意が無くなったり、尿が出にくくなったり、リンパ節をとって足が腫れたりという合併症も
おき得ます。
また大きな傷がおなかに残ります。ただ、比較的初期なら、2018 年から腹腔鏡手術が、そしてこの春からはロボット支援手術が可能となるので傷は目立ちません。

二見いすず
傷の小さな手術をするためにも、やはり早めに見つけることが大切なんですね。

小林裕明Dr.
そうですね。あと併せて覚えておいていただきたいことがあります。
現在、妊娠される方の年齢は 30 代前半が最も多いのですが、

実は子宮頸がん発症率もこの 30 代前半が最も多いんです。
そして、毎年子宮頸がんで亡くなる女性は 3 千人ぐらいですが、
その何倍もの女性が命は落とさなくても子宮を失って妊娠できなくなります。
つらい思いをして生きている子宮頸がん患者が多いという事実を
今日はぜひ知っていただきたいです。
来週は、そうならないための予防がとても大切ということをお伝えいたします。

二見いすず
よく分かりました。今月は「子宮頸がん」をテーマにお送りいたします。
お話は小林裕明さんでした。小林さん、ありがとうございました。

小林裕明Dr.
ありがとうございました。